

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

6月下旬、福井県あわら市を主会場に開催された第63回全日本総合男子ソフトボール選手権および第69回全日本総合女子ソフトボール選手権の北信越予選

会が開催され、長野県ソフトボール協会に審判員1名と記録員1名の派遣要請があり審判員として大会に臨んだ。10時からの監督会議に出席との指示で、朝5時に自家用車で出発、片道約4時間・往復500キロでの道のりを要した。

開催地は持ち回り制となっており、近年は国民体育大会のリハール大会として、翌年の国体開催地で実施されているため、今回は、来々開催される第73回国民体育大会(福井)あわせ元気国体の予行も兼ねており、関係者の熱意と緊張感が随所に感じられた。1日

目は、前年度優勝の富山代表YKKチームと石川県代表金沢学院大学チームの球審、2日目は、前年度優勝の福井県代表FSC石橋建材と石川県代表金沢教員ソフトボールクラブ

の達成感、それまでの緊張感を取り除かせる。翌日会場で話をしてくれた。翌日の天候を配慮して、大会日程を当日変更、終了時間が遅くなり、楽しみにしていた温泉入浴時間が取れ

ボール談義で盛り上がる。翌日会場で話をすると、古くからの友人のような親密さに、これがスポーツの持つ魅力なのかと嬉しくなる。女子は、9月に全国

伝統あるレベルの高い現場での経験は 良き刺激を授かることを痛感する

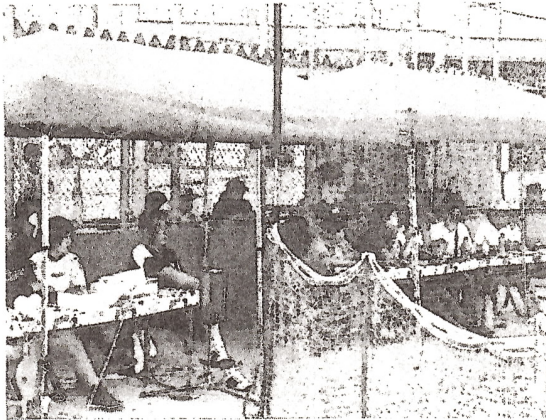
チームの決勝戦での三塁塁審を担当。各県の審判員技術の捉え方に興味を持って対応する。競技レベルの高いチームのプレーは、一瞬の気の緩みを与えてくれない緊張感の連続だったが、試合終了後

ず、懇親会場に直行。北信越の競技役員と話す機会に恵まれた。指定された部屋は、各県から派遣された審判員と同室に。新潟県の齋藤昇さん・富山県の丸田信夫さん・石川県の隅谷三郎さんとソフト

大会が福井県で開催される。入念な会場準備を担当するスタッフ、会場放送に当たるメンバー、競技運営に携わる役員や審判員・記録員、取り組む姿勢から成功間違いなしと思わず太鼓判を与えて、楽

しんでいる自分がいる事に気付かされる。審判技術の未熟な私を派遣していたいた中、信地区の役員に感謝しかない。大きな誤審は、長野県の評価にも直結する。入念な事前の準備をしても、一度の過

ちで評価さなくなると実績優先の現場を体験できたことに感謝し、技術の大切さを知った。県外派遣でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



熱戦が繰り広げられる試合会場の裏舞台でもスタッフ育成への取り組みが真剣に行われていた